

令和7年度 学校自己評価システムシート (武南中学校)

目指す学校像	豊かな人間性の確立を目指し、学力の向上、健康な心身の育成を図り、志を高く持ち、21世紀の社会に貢献できる自主・自立・自学・協同の精神に満ちた生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 授業の充実・指導改善 2 開かれた学校づくりの推進 3 高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底 4 自己実現を図るための指導の徹底 5 豊かな人間性を育む教育の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
-----	-------	----

学校自己評価							
年度目標				令和7年度評価(2月26日現在)			
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	授業の充実・指導改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究週間が定着してきており、授業の充実・指導改善のための方策を一層検討する必要がある。 生徒による授業評価を教科全体で共有出来ているが、授業改善につなげられているとはいいがたい。 ICTを活用した授業を展開しているが、生徒の思考力、判断力、表現力の向上につながっているかを検証する必要がある。 英語の4技能を統合した授業による成果が上がっており、一層工夫改善が必要。 他校の情報を得る機会を作る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究週間を活用し相互に、各教科でテーマを決めて授業参観を行う。 国語、数学、英語において、外部講師を招いての授業研究会を実施する。 生徒による授業評価をもとに、各自がどう授業改善を図ったかを検討する。 ICTを活用した授業により、生徒同士が情報を活用し意見交換をする取組を推進する。 ALTを積極的に活用し、異文化理解プログラムを継続して円滑に実施する。 他校を訪問し優れた授業や先進的な授業法を学び自らの授業実践に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究週間においてテーマを決めた授業参観が実施できたか。 管理職による授業観察の回数とフィードバックの内容等。 校内で外部講師を招いての研修が実施できたか(国語・数学・英語)。 生徒による授業評価をもとに授業改善を進められたか。 異文化理解プログラム「BUNAN INNOVATION」の実施による英語検定3級以上の合格者数、合格者の割合。 他校への視察の回数と研修会等への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科でテーマを絞り、授業観察を相互に行い意見交換を行った。 管理職(校長・教頭)による授業観察を全員行い、指導助言を行った。 国語、数学、英語において外部講師を招いて授業研究会を実施できた。 生徒による授業評価を基に、教科会を実施し授業改善の取組を進めた。 「BUNAN INNOVATION」の実施により、3年生英語検定準2級13名、3級23名、3級以上合格者73.5%と実績を残した。 県教育センターに1名、埼玉附属中学校4名、大宮国際2名、筑付駒場中学校に2名参加し研修に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は授業観察の振り返りの後、授業改善がどう図れているかを検証する必要がある。 今後も、管理職による授業観察を継続して計画的に実施して、教員の授業力向上を図る必要がある。 来年度は、公民科、理科、情報科で外部の指導者を招いての研修を実施する予定。 「BUNAN INNOVATION」の実施による成果を引き続き検証し、合格率の向上を図る必要がある。 引き続き研修の充実に努めるとともに、授業改善に生かし、教員の力量の向上に努める必要がある。
2	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、学校説明会、入試体験会を通して教育活動の周知に努めている。 近隣小学校や中学校地域のコミュニティセンターと連携した取組や交流が少ない。 ボランティアや地域貢献活動等に参加する機会を積極的に取り入れる必要がある。 「武南学園だより」を発行することで武南中学校の魅力を広げ周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、学校説明会、入試体験会を保護者や地域に積極的に周知する。 近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等の実施を検討する。 地域の自治会や蕨市のコミュニティセンターと連携し、積極的に生徒を派遣する。 ボランティアの参加機会リストを提示したり地域活動の参加機会を提供したりする。 HPや「武南学園だより」の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に周知できたか、その回数等。 近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等が実施できたか。 地域の自治会や蕨市コミュニティセンター等と連携し、積極的に生徒を派遣できたか。 クリーン作戦やボランティアの実施回数。 HPや「武南学園だより」の充実が図れたか。HPの更新回数、閲覧回数。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会8回、入試体験会2回で、計1,120名来校。 保護者会3回413名、授業公開2回312名、保護司の会来校7名。 クリーン作戦2回実施(全員参加) 図書委員会の生徒による蕨市図書館コラボ展示2回実施。 中学生「税についての作文」表彰。 HPの更新回数64回、武南学園だより11回発行。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校や地域のコミュニティセンターと連携した取り組みを企画して実施する必要がある。 受験生だけでなく、地元の小学生等に教育内容を公開することを検討する必要がある。 クリーン作戦やボランティアに積極的に参加するように働きかける。 HPや学園だよりだけでなく新たな情報発信を研究・検討する。
3	高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習時間を確保できていない生徒が多く学力の伸びが緩やかである。 基礎・基本が身に付いていない生徒のための手立てを考える必要がある。 予習、授業、復習のサイクルが定着できていない生徒への対応が必要である。 学力差がある生徒への対応が必要である。 教科横断型の授業やデータサイエンスの授業を実施することで生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばす必要がある。 再指導や再考査の対象者を減少させるための手立てが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を推奨するとともに、放課後における「自学自習」のサポート体制を充実させる。 基礎的な講座を開設したり、授業時間内に小テストを繰り返し実施することで基礎学力の定着を図る。 習熟度別授業や個別指導を行い、個々の能力・適性に応じた学力の向上を図る。 STEM教育やデータサイエンスを取り入れた授業により、問題解決型学習、教科横断的な学習を一層進める。 再指導や再考査を減らすための事前指導を徹底して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や放課後の「自学自習」のサポート体制が作れたか。放課後学習の参加生徒数。 基礎的な講座が開設されたか。また、小テストの実施教科数。 習熟度別授業や個別指導により、どの程度成績が伸びたか(学力推移調査結果)。 STEM教育やデータサイエンスの授業により、各教科・領域の知識や考え方が身に付いたか。 再指導や再考査の人数が減少したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝講習13講座、放課後講習11講座を実施し、学力の向上を図った。 国数英等で定期的に小テストを実施し基礎学力の定着を図った。 学力推移調査結果(4月→9月) <ul style="list-style-type: none"> 1年4月39.6→41.2 2年4月43.1→44.0(入学39.1) 3年4月45.4→45.0(入学39.1) 3月に「数学科と理科」の教科横断型の授業に取り組む予定。 再指導 R6 →R7 <ul style="list-style-type: none"> 延べ人数797名→1292名(162%増) 合格者数370名→543名(148%増) 合格率46.4%→42.4% 再考査前の指導の充実を図れた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や放課後の指導を組織的、計画的に実施し、学力向上に努める。 引き続き小テストや単元テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力を伸ばすよう努める。 上位層に対して、講習等の実施と「自学自習」の取り組みを進め、高いレベルでの学力の向上を図る。 STEM型の教科横断授業の研究を一層進めるとともに効果測定の方法を研究・検討する。 今年度の再指導数増加を踏まえて、再考査の在り方や進め方を再検討する。成績不振者に対して、試験前指導の充実を一層図るよう努める。
4	自己実現を図るための指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 一貫校として6年間を見通した進路指導・キャリア教育の充実を図る必要がある。 一貫コースとしての探究的な課題を設定した理科、社会科、美術科等の各種フィールドワークを実施することにより、生徒の興味や関心を広げる必要がある。 依然として悩みを抱える生徒や不登校生徒がおり、支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を活用し、中学校から高校までの学びのプロセスを記述し振り返る。 総合的な学習の時間におけるSDGsの取組(Save the Children Japanとの連携)。 一貫コースとして探究的な課題を設定したフィールドワークの取組を一層進める。 スクールカウンセラーや教育相談員と連携しながら、悩みや不安を抱えた生徒及びその保護者に寄り添った支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリア意識や職業観がどの程度高まったか。 Save the Children Japanとの連携により、生徒の意識に変容が見られたか。 フィールドワークの実施により、生徒の思考力や判断力・表現力が高まったか。 一貫校として探究活動の充実が図れたか。 生徒面談は年間どの程度実施できたか。 スクールカウンセラーや教育相談員の相談件数と不登校生徒の減少数。 	<ul style="list-style-type: none"> Save the Children Japanとの連携におけるマダガスカルとの交流授業等により、自ら考え行動するといった生徒の意識に変容がみられた。 国、理、美、社のフィールドワークにより、生徒の主眼的に学ぶ力や意欲や探究心を高めることができた。 不登校人数計7名(昨年9名)がおり、カウンセラーや相談員とつなげ保護者も含め面談を実施し改善を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々なキャリア教育の取組を体系化し、生徒の6年間を見据えたキャリア教育の充実を図る。 キャリア意識の向上を図るため、フィールドワークとして、改めて大学見学会や企業訪問等を実施する。 生徒の面談週間を設け、定期的な生徒面談を実施する。 スクールカウンセラーや教育相談員との情報交換や共通理解を図り指導に当たる。
5	豊かな人間性を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営をしっかりと行い、生徒の抱える課題や人間関係を把握して予防的な生徒指導に努める必要がある。 授業規律をはじめ、生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。 部活動が停滞している。引き続き生徒会活動、委員会活動も充実させる必要がある。 アジア研修旅行においては事前・事後の学習を充実させることにより、グローバルな視点を一層醸成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営を中学校全体で支援し、全教職員で生徒の観察に努め、深刻な問題に発展しないよう初期段階で解決する。また、授業を始めとして生徒の規律ある態度の育成に努める。 部活動、生徒会活動を充実させることで、学習意欲の向上につなげる。 様々な学校行事を充実させることで「協同性」を身に付けより実践的な態度を育てる。 一貫校の特色を生かし、アジア研修の事前・事後学習を充実させることで、国際性や多様性の尊重、共感力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営状況、生徒の問題行動件数がなくなったか。規律ある態度が身に付いたか。 学校行事により望ましい人間関係の構築、自主的・実践的な態度が身に付いたか。 部活動の充実により、責任感や連帯感、学習意欲の向上が図れたか。 様々な学校行事の実施により、中学校への帰属意識や連帯感を深められたか。 アジア研修の実施によりグローバルな視点や国際性、多様性の尊重の育成が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導では、生徒の問題行動は1件、落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。 部活動については、生徒それぞれが楽しんで参加できている。 文化祭、体育祭、球技大会等の学校行事にクラスで協力して取り組むことができた。 アジア研修旅行では、カンボジア紛争により、来年度に延期した。 文化祭での事前学習の発表等を通して、充実した研修となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問題行動を未然に防ぐため、積極的な生徒指導を行うよう努める。 ネットトラブルを防ぐため、生徒向けの指導の一層の充実を図る。 部活動の活性化を図るため、部活動加入率を高める工夫を行う。 文化祭における学級対抗の合唱コンクール等の企画を検討し、生徒の帰属意識を高める。 延期したアジア研修旅行の新たな行先やプログラムの検討を行う。

学校関係者評価	
実施日	令和8年2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業参観の際に各教科がテーマを決めることは良い。 外部講師を招いた授業研究会は、視点がしっかりして良い。 どのような生徒を育てたいのかの指標を明確にすることは良い。 資格を取得したことがゴールにならないようにモチベーションの向上に努めてもらいたい。 グループワークの導入により、自己肯定感の向上が見られた 教員が中に入るなどで、グループワーク内の機能を高めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会の様子がどのようなものなのか、興味があるところである。 HPの更新が定期的に行われていることは良い。 学校生活の様子をさらに情報発信していくと良い。 クリーン作戦や登下校時の様子は、地域からの評判が良い。
<ul style="list-style-type: none"> 学力推移調査結果からも数値的な伸びが見られていて素晴らしい。 再指導などの手厚い指導は良い取り組みだと考えられる。 再指導合格率の向上に向けて、原因追究をする必要があるのではないかと。 細かく丁寧な指導してもらっていることに感謝をしている中で、自学する習慣への取組に難しさを感じている。 働き方との関わりからも、AIやITなどの活用の検討が必要なのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> Save the Children Japanとの連携など、視野を広げるための取組は、自己肯定感を高めることへつながり素晴らしい。 様々な学力向上への取組に興味があり、期待している。 長期休業中の講習や探究活動などの成果が出ており、今後はどのように自信を持たせていくのか注目している。 不登校の生徒への対応をどのようにしていくのが課題となるのではないかと。

